

令和7年度石川県産業教育審議会 議事録

1 日 時 令和7年11月28日(金) 10:30～12:00

2 会 場 石川県立工業高等学校 多目的ホール

3 参加者 委員 9名 (欠席6名)

浅田 勝大、石野 晴紀、小島 久枝、徳永 光晴、中村 俊介
萩原扶未子、端 久美、藤井佳代子、宮川 昌江

4 日 程

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 出席者紹介

(4) 事業紹介

「本県の産業教育等の取組」

(5) 説明

「県立工業高校の取組」

・生徒発表

○「長期型企業実習（デュアルシステム）」の取組紹介

(6) 意見交換

[産業教育の活性化について]

- ・ものづくりにおいて、原理原則という言葉があり、本当はそこを求めている。AIやDXは応用は効くが、すぐに利用すると基礎の部分が弱くなる。何か問題があった時に、問題発見や解決方法を考える際、基礎に立ち戻ることには苦労する。ものづくりが進化している中で、原理原則は絶対に欠かせない。
- ・いしかわ産業教育フェアについては、高校生の元気な姿や生き生きとした活動を一般の方にも見ていただき、専門高校の在り方を十分にアピールできていると感じた。
- ・「人間力」は職種問わず、本当に大事だと考える。グローバル人材育成事業やデュアルシステムの発表を聞き、参加された生徒さんは人間力を高められたと感じた。他を理解して、自分らしい表現をすることの大切さについても本当に大切なことである。
- ・デュアルシステムの協力企業の育成プログラムが素晴らしく、本当に印象的であった。デュアルシステムの良い点は、学校で学んだことを実践でどのように活かせるか、実践後、学校で何を学ばなければいけないかという経験ができることだと思う。
- ・就職しても、「自分の仕事」を見つけられずに転職を繰り返す人がある。仕事のミスマッチングがあることは本当に残念だと考える。生活できる職を見つけることが一番大事な学びだと思うので、小学校、中学校、高校の時に将来の自分の職を早く見つけられるような教育を取り入れる必要がある。

(7) 閉 会